

<b>経済産業大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 <b>株式会社日立産機中条エンジニアリング</b> <b>東京エコリサイクル株式会社</b>
	所在地 <b>新潟県胎内市／東京都江東区</b>
	受賞テーマ <b>情報・通信機器のリサイクルによるベースメタル及びレアアースの国内循環推進</b>

受賞者を含む日立グループでは企業の社会的責任の観点から、自社で製造した製品のリサイクル、枯渇する資源の有効活用、資源の国内循環を推進している。当該活動においては、(株)日立製作所及び日立オムロンターミナルソリューションズ(株)の情報・通信機器のリサイクルを行っている。

1. 手分解による部材ごとの分解・分別とセキュリティ対応

収集した情報・通信機器は、鉄・基板・プラスチック・電池・HDD(ハードディスクドライブ)・小型ユニットに分解・分別を行っている。

また、HDDには顧客の情報が格納されているため、物理的破壊を行い機密情報の漏えい防止を確実にしている。



手分解による分解・分別



分別された部材

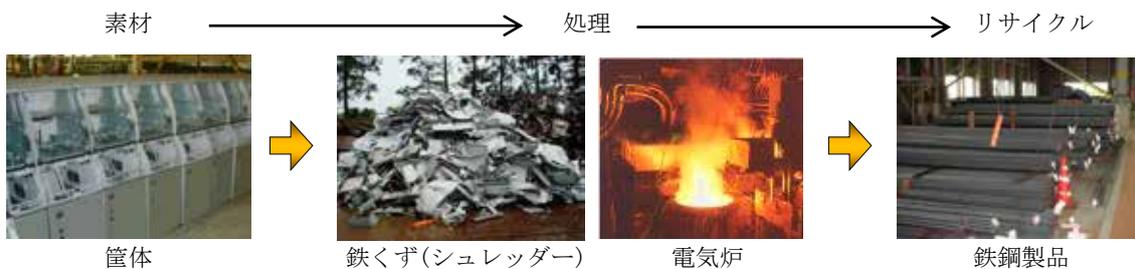


HDD物理破壊

2. 国内完全リサイクル処理

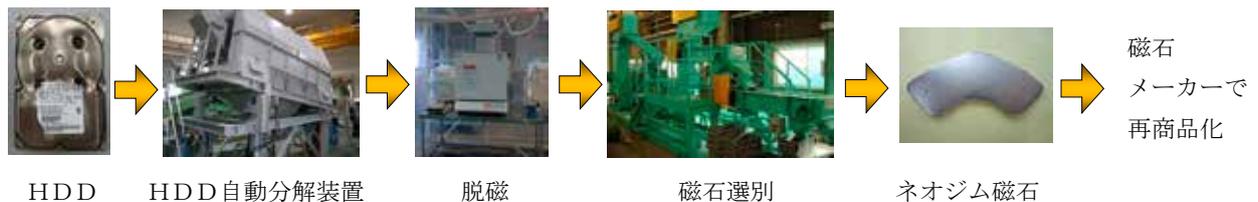
(株)日立産機中条エンジニアリング(以下、(中条エンジ))で分解・分別されたそれぞれの部材について、筐体は新潟県の電気炉メーカーで鉄鋼製品に再商品化、ユニットは新潟県のシュレッダー処理業者で鉄と非鉄等に分別し、鉄は新潟県の電気炉へ、非鉄は国内精錬業者へ、基板・ケーブルは国内精錬業者へ、二次電池は国内精錬業者またはJBR Cへ、物理破壊されたHDDは、東京エコリサイクル(株)(以下、(東京エコ))で再資源化されている。

また、部品の一部は、メンテナンス用の部品としてリユースされている。



3. 日立グループ内でレアアース(ネオジム磁石)の回収・再生

中条エンジで分別・物理破壊を行ったHDDは東京エコへ輸送され、HDD自動分解装置でさらに部品レベルまで分解・選別される。ネオジム磁石は脱磁を行い、取り出す。取り出したネオジム磁石は日立金属(株)などの磁石メーカーへ輸送し再資源化を行っていて、日立グループ連携でリサイクルを推進している。



今後もさらに製品の幅を広げリサイクルに取り組むと共に、他社製の製品についても日立製品同様にリサイクルを積極的に提案し3Rを推進していく。また推進に伴い、これからの高齢化社会に対応して高齢者の雇用創出という新しい仕事の場へと繋げていく。